



インフルエンザ感染症が猛威を奮う今日この頃、やっぱりマスクは外せないですね。

昨年、気仙沼保健福祉事務所で開催している『高次脳機能障害家族交流会』をご紹介しますが、2025年4月に『みやぎ高次脳機能障害友の会・だてすずめ』という当事者・家族会が発足し、活動を開始しました。高次脳機能障害者と家族、その支援者、関心のある方のネットワークづくりと交流を目的に

ています。

高次脳機能障害とは

高次脳機能障害とは、交通事故や転落などでの頭部外傷、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血などの脳卒中、また、心肺停止による低酸素脳症、感染症による脳

みやぎ高次脳機能障害友の会

《だてすずめ》

する、脳が疲れやすく飽きやすい、怠けていると性格を誤解されたり「問題を起こす困った人」と偏見をもたれる場合も多いです。

とどめる時間が短く、家族が何を怒っているのか分からず混乱し、悲しい気持ちになります。

や立場の者同士ではないでしょうか。私自身、18年前から家族の立場として、発症して2年間は情報が限定され孤独感を持っていましたが、09年から気仙沼保健福祉事務所が開催する『高次脳機能障害者家族交流会』に参加したことで、少しずつ解消され前を向けた経験があります。

この度、県内で自発的に活動する当事者会や家族の団体が情報交換の活性化、県レベルで情報発信するため連合体組織を結成することになりました。それが『だてすずめ』です。今年度は月1回、県内で意見交換会をしています。気仙沼会場は2月21日です。当事者の方、ご家族、支援者の方、ぜひ参加して話を聴かせてください。

炎などで脳がダメージを受けたことにより、脳機能に障害が出て、日常生活や社会生活に支障が生じる状態をいいます。重い意識障害の状態から徐々に回復しても、新しいことが覚えられない、忘れる、段取りができない、怒りっぽい、集中力が続かない、場をそぐわない言動を

明を聞いても、在宅生活で実際に本人の様子を目の当りにすると懸命に考えられる限りに対処しようとしています。

あつたります。悩みを共有し情報発信

突然の事故や病気で生死をさまよい生還したあとに周りの理解がない、家族も対応に困る、そのような時、気負わず情報を得られやすいのが当事者会や家族会です。誰よりも共感できるのは同じ障害

本高次脳機能障害友の会の正会員として加入する当事者・家族会がありませんでした。宮城の当事者、家族の声を直接発信できず、情報も得られにくい状況でした。

お問い合わせ

- ◇一般社団法人どんまいネット
みやぎ
(電話) 022-797-8801
- ◇一般社団法人コ・エル
(電話) 0226-25-9123

（みやぎ高次脳機能障害友の会・だてすずめ 代表）